本当に大切なもの（チャペルメッセージ⑩）

一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」 主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」　（新約聖書・ルカ福音書 10 章 38-42 節）

ご記憶の方もおられるかと思いますが、新型コロナウイルスの感染が世界全体に拡大し始めた今年二月末に、あるイタリアの高校の校長先生が生徒たちに送ったメッセージが日本でも紹介され、話題になりました。その一ヶ月後の三月末に、ある出版社の依頼を受け、その校長先生より日本の若者宛てにメッセージが届けられました。以下、その一部を引用します。

……家の中に閉じこもり、孤立するのは、誰にとっても困難な体験です。若者には、なおさら辛く感じられることでしょう。私は、日本のことは良く知りません。日本映画を何本か観た、本を何冊か読んだ程度です（日本の作家では、村上春樹が好きです）。でも、日本に住む若者たちも、イタリアの若者たちとそう違わないのではないかと想像します。似たような夢や希望を持ち、同じような願いや恐れを持っているのではないでしょうか。イタリアでは、高校生は 14 歳から 19 歳です。この時期は、同年代との付き合いが何より重要です。同世代との付き合いを通じて家族から自立した大人になっていきますし、社会性を身に着けていきます。恋を知る頃でもあります。新型コロナウイルスの流行は、こうした機会を一気に奪ってしまいました、家の中で、何週間も、何カ月も過ごさなければならないのです。しかし、最悪の経験からも、得られることはあるものです。アメリカの作家ピーター・キャメロンの小説のタイトル『Someday This Pain Will Be Useful To You』がいうように、この痛みはいつか、皆さんの財産になるでしょう。

隔離された孤独な時間も、いつかは終わります。それは確かです。この時間を自分自身について、人生について考える大切な機会にできるのです。今回の非常事態は、21 世紀に生きる私たちが抱いていた確信のいくつかを揺るがしました。自分たちを「無敵の勝者」だと思っていたのに、実は脆いことに気づかせてくれました。現代社会のすさまじいリズムに巻き込まれ、流された生活をしていたのに立ち止まらざるをえない状況になりました。この動けない状態は、私たちのライフスタイルを考え直すよい機会になるかもしれません。命や愛、友情や自然など、本当に大切なものは何か、理解する機会になるかもしれません。この危機を乗り越えたとき、皆さんはきっと変わっていることでしょう。よい方向に代わることができるかもしれません。もっと自覚を持った、もっと素晴らしい人間になることができるかもしれません。本を読み、考えることで、この孤独な長い日々を無駄に失われた時間にせず、有益で素晴らしい時間にしましょう。イタリアの生徒たちにとっても、日本の生徒たちにとっても、そうあってほしいと思います。皆さんの幸運を、心よりお祈りいたします。

（ドメニコ・クキラーチェ著『「これから」の時代を生きる君たちへ』、世界文化社、2020 年）